

2022年4月8日(金)

プレスリリース

特別展 長瀬智之展

肖像画に生きる永遠の名馬たち



《The greatest of the sire lines》2019年 油彩・キャンバス 89.5×218.7 cm
Sadler's Wells(中央)、Galileo(左)、Frankel(右)の三代にわたる偉大な血脈を表現した作品。
Frankelには対面を果たせていないため、その姿は未完成となっている。

©Tomoyuki Nagase

【展覧会概要】

展覧会名:特別展 長瀬智之展 肖像画に生きる永遠の名馬たち

会 期:2022年4月23日(土)～8月28日(日)

開館時間:10時～17時 中央競馬開催日

10時～16時 その他の日(東門のみ開放)

会 場:JRA競馬博物館 (東京都府中市日吉町1-1 JRA東京競馬場内)

休 館 日:月・火曜日(祝日は開館し、直後の平日を休館)

※6月29日(水)～7月8日(金)は館内整備のため休館

入 館 料:無料(ただし東京競馬開催日は、競馬場への入場券が必要)

主 催:公益財団法人馬事文化財団

協 力:厩 UMaya、蹄跡

【ご挨拶】

長瀬智之(1961年生まれ)は、日本では珍しい馬専門の油彩画家です。1998年のデビュー以来、一貫して馬をテーマに制作を続けてきました。長瀬の描く馬は、たてがみの一本一本に至るまで繊細な美しさを湛え、肖像画でありながらも馬の温かさや息遣いを感じられるような生命感に満ちています。

本展は、これまでに描いてきた名馬たちの肖像画をはじめ、五冠馬であるシンザン、シンボリルドルフ、ディープリンパクトを一枚に描いた最新作《Five crown horses》を含む、絵画作品約70点をご紹介します。画家自身初の大規模個展です。

また、会期中に展示室内で自身のライフワークである黒馬で構成される英国の王室騎兵隊“The Household Cavalry”をテーマにした大作に挑みます。これは十数年前からの画家の構想がようやく実現するものです。巨大なキャンバスにどのような騎兵隊が現れるのか、ぜひ画家の大仕事にもご注目ください。

【長瀬智之】

1961年福岡県生まれ。1979年に同志社大学へ入学、同大ラグビー部で史上初大学選手権3連覇達成の一員として活躍。卒業後イラストレーターを経て、1998年画家へと転身。競走馬をモチーフに作品を手がけ、2000年より北海道での長期滞在を恒例化し、牧場にて馬と共に生活。サンデーサイレンスを始め数多くの名馬と出会い作品を生み出す。2008年にはアイルランドと英国を訪問、世界最高峰と称される名馬サドラーズウェルズと邂逅、長年の夢を果たす。英国では絵画や騎馬隊などの馬事文化に触れ、芸術的視野を広める。さらに馬の絵画で世界的に評価を得ている王室画家、スーザン・クロフォード氏に師事。2009年には米ロサンゼルスへ馬の画家として国際的に知られている巨匠フレッド・ストーン氏を訪ね、師事。2012年には英国 Olympia Horse Show に日本人で初めて出展し海外での作品発表を果たす(2019年に2度目の出展)。2014年、JRA60周年記念「サラブレッドの美しさ」絵画コンテスト金賞受賞。2017年、日本初の馬専門ギャラリー「UMAYA」をオープン(現在は移転に伴い休廊中)。2019年、英国ジョッキークラブ・ルームズとマニングス美術館を表敬訪問。同年、JRA競馬博物館「競馬の殿堂」へ顕彰馬ロードカナロアの肖像画を納め、続いて2021年に顕彰馬キタサンブラックの肖像画を納める。

【見どころ】

- 長瀬智之初となる大規模個展
- 新作《Five crown horses》を含む名馬たちの肖像画を多数出品
- 1.8×5.5mの巨大キャンバスを使ったライブペイント！
- 約4カ月にわたって長瀬本人が絵を描く姿を博物館で毎日見学できます

【イベント情報】

毎日開催！長瀬智之ライブペイント

約4か月間の会期中に英国の王室騎兵隊“The Household Cavalry”をテーマにした大作を描き上げます。縦1.8×横5.5mの巨大キャンバスに少しずつ騎兵隊が現れる様子を間近でご覧いただけます。

開催日：会期中の開館日

時間：開館時間に準じる

場所：JRA 競馬博物館 1階 馬の学び舎・ミュージアムホール

申込：不要（どなたでもご覧いただけます）

※都合によりご覧いただけない場合がございます

【来館者プレゼント】

会期中の来館者に本展のオリジナルポストカードをプレゼント！

4月から8月まで毎月異なる絵柄のポストカードをご用意しています。

数に限りがありますので、無くなり次第配布終了となります。



※詳細は競馬博物館ホームページ等でお知らせします

【出品予定作品(モデル馬名)】 ※作品名とは異なる

アーモンドアイ、ウオッカ、ウォーエンブレム、オルフェーヴル、カフェファラオ、ガリオ、クロフネ、サトノダイヤモンド、サドラーズウェルズ、シンザン、シンボリルドルフ、セクレタリアト、ディーピンパクト、ハーツクライ、フランケル、マンハッタンカフェ、ロードカナロア

【会期中の東京競馬場への入場について】

■東京競馬開催日

4月23日(土)から6月26日(日)までの土曜・日曜

⇒東京競馬場指定席または入場券の事前予約が必要となる可能性があります

■パークウインズ開催日

7月2日(土)以降の土曜・日曜

⇒入場無料・予約不要

■平日(原則として水・木・金曜日)

⇒入場無料・予約不要(東門のみ開放)

【アクセス】

JRA 東京競馬場東門すぐそば

- | | |
|-----------------|---|
| ■京王線 | 府中競馬正門前駅から徒歩 7 分
東府中駅から徒歩 10 分
府中駅から徒歩 18 分 |
| ■JR 武蔵野線／JR 南武線 | 府中本町駅から徒歩 18 分 |
| ■西武多摩川線 | 是政駅から徒歩 20 分 |

【お問合せ】

公益財団法人馬事文化財団 JRA競馬博物館

〒183-8550 東京都府中市日吉町 1-1 JRA 東京競馬場内
Tel 042-314-5800 / Fax 042-334-4854

【画像】 展覧会広報用にデータを貸出いたします

1



2



3



4



1. 《Secretariat》 2019年 油彩・キャンバス 60.6×72.7 cm
2. 《孤高》(モデル馬:ハーツクライ) 2021年 油彩・キャンバス 91×60.6cm
3. 《Eternal》 2021年 油彩・キャンバス 72.7×91cm
4. 《Clydesdale》 2009年 油彩・キャンバス 60.6×91cm

すべて©Tomoyuki Nagase

※表紙に掲載の作品《The greatest of the sire lines》も貸出可能です

5



6



5.《Colt》2020年 油彩・キャンバス 22.7×15.8cm

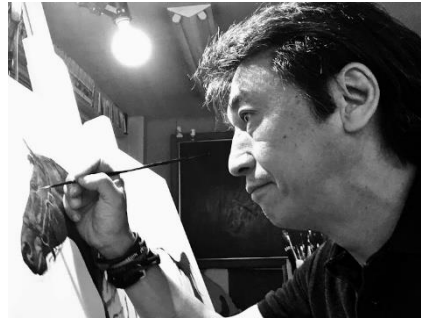
6.《素描》2021年 鉛筆・紙 17.1 ×23.2 cm

すべて©Tomoyuki Nagase

7



8



7. 英国王室騎兵隊「The Household Cavalry」

8. 長瀬智之ポートレート

【同時開催】

企画展「オグリキャップー今甦る芦毛の怪物ー」

会期:2022年4月23日(土)~10月2日(日)

会場:JRA 競馬博物館 2階展示室3

昭和の終わりから平成にかけて社会現象ともいえる競馬ブームを巻き起こし、競馬そのもののイメージさえも変えたオグリキャップ。日本がバブル景気に沸いた時代にファンの心を鷲掴みにしたその走りとドラマチックなフィナーレは今なお語り継がれています。本展では芦毛の怪物と呼ばれた同馬の蹄跡を関連資料などとともに振り返ります。



1990年(平成2)第35回有馬記念

©H.Imai/JRA